

人工知能による術前化学療法後乳癌リンパ節転移消失に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2023年10月26日～2024年12月31日

〔研究課題〕

人工知能によるリンパ節転移陽性乳癌における術前化学療法後リンパ節転移消失予測モデルの構築

〔研究目的〕

超音波などで腋窩(わき)のリンパ節転移がないと診断された乳癌に対しては、センチネルリンパ節生検を行うことにより、腕のむくみ(リンパ浮腫)などの合併症の可能性のある腋窩リンパ節郭清を省略することができます。一方、腋窩リンパ節転移のある乳癌に対して術前化学療法を行った場合、約40%でリンパ節転移が消失することが報告されています。しかし、リンパ節転移のある乳癌では、センチネルリンパ節生検の精度が低いため、その安全性が問題となっています。そこでこの研究では、術前化学療法を行ったリンパ節転移のある乳癌の患者さんの画像所見や病理診断などの情報から、人工知能を用いてリンパ節転移が消失する因子を解析し、どのような患者さんに対して安全にセンチネルリンパ節生検を行うことができるかを検証します。

〔研究意義〕

術前化学療法によってリンパ節転移が消失する患者さんを正確に予測できれば、安全に腋窩リンパ節郭清を省略することができ、リンパ浮腫などの合併症のリスクを減らすことができます。

〔対象・研究方法〕

帝京大学医学部附属病院で2006年3月から2022年12月までの期間に術前化学療法を行ったリンパ節転移のある乳癌の患者さんを対象とします。診療録(臨床データ、画像データ、病理組織所見等)を参照しデータを解析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部 外科学講座

共同研究機関：慶應義塾大学・先端生命科学研究所 責任者：杉本昌弘(教授)

〔個人情報の取り扱い〕

個人情報に十分配慮し、個人を同定できない形に加工したデータを用いて分析を行います。尚、分析は慶應義塾大学・先端生命科学研究所へデータを提供して行います。提供されるデータには個人の同定が可能な情報は含まれません。研究終了時、本研究に関わる資料およびデータは帝京大学臨床研究センターにて10年間保管の後に廃棄します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：氏名 松本暁子 職名 帝京大学医学部 外科学講座 助教
所属：帝京大学医学部 外科学講座／帝京大学医学部附属病院 外科
住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表)